



建築物総合環境計画概要書 新築

■使用評価マニュアル:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2.1) ■使用評価ソフト:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2)

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)コスモスクエア駅前プロジェクト		
建設地	住之江区南港北1丁目		
建築用途	ホテル、物販店、集合住宅		
建築主			
設計者			
敷地面積	3,430.05	m ²	
建築面積	2,296.59	m ²	
延床面積	31,699.26	m ²	
構造/階数	RC造	/ 地上18階	
完了年(予定)	2030年2月		

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

B+
BEE=1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

項目	建設	修繕・更新・解体	運用	オンサイト	オフサイト
①参照値	100%				
②建築物の取組み	66%				
③上記+②以外の	66%				
④上記+	66%				

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

ラベル表示 **有**

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア= **3.0**

Q1 室内環境

Q1のスコア= **3.2**

項目	スコア
音環境	3.3
温熱環境	3.3
光・視環境	3.0
空気質環境	3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア= **2.9**

項目	スコア
機能性	2.8
耐用性・信頼性	3.2
対応性・更新性	2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= **2.7**

項目	スコア
生物環境	2.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	3.0

LR 環境負荷低減性

LRのスコア= **3.5**

LR1 エネルギー

LR1のスコア= **3.9**

項目	スコア
建物外皮の熱負荷	3.7
自然エネルギー	2.6
設備システム効率化	5.0
効率的運用	2.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= **2.9**

項目	スコア
水資源保護	3.4
非再生材料の使用削減	2.7
汚染物質回避	3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= **3.5**

項目	スコア
地球温暖化への配慮	4.3
地域環境への配慮	3.0
周辺環境への配慮	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 専有部の室内環境の向上や、Low-eガラスの採用をおこない、省エネルギー消費量を特に意識し、地球温暖化の抑制に努めるよう配慮した設計とした。		その他 特になし
Q1 室内環境 仕上げ材はF☆☆☆☆を採用し、共用部の昼光率2.5%以上、居室面積の1/8以上および客室面積1/15以上の開閉可能な窓を確保するなど、室内環境に配慮した。	Q2 サービス性能 住宅の階高3.1mとし、機能性や対応性・更新性に配慮した。躯体耐用年数(品確法 劣化対策等級3)、外壁仕上げ材の補修必要間隔や給排水配管の更新必要間隔を長くするなど、耐用性・信頼性に配慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地のみならず建物壁面や建物屋上にも緑化を行うなど、敷地内温熱環境の向上に務めた。
LR1 エネルギー Low-Eガラスを含むペアガラスにて断熱性能を高め、エコジョーズやLED照明などの効率の良い設備機器や節湯器具を選定することにより一次エネルギー消費量を抑える配慮をした。	LR2 資源・マテリアル 節水器具を採用し、ODP=0かつGWP=1の断熱材を採用するなど、資源・マテリアルの保護に配慮した。	LR3 敷地外環境 建物全体の一次エネルギー消費量を抑えることにより、連動してライフサイクルCO ₂ 排出率も下がるよう配慮した。

建築物環境性能表示 結果〔重点評価〕

総合評価BEE = 1.3

ラベル表示



環境性能		評価点
(1)CO2削減		4.0
CO2削減に配慮した環境性能		概要記入欄
LR3/ 1 / /	地球温暖化への配慮	4.3 ライフサイクルCO2排出率が一般的な建物に対して63%程度
配慮事項	効率の良い設備機器や節湯器具を選定することにより一次エネルギー消費量を抑える配慮をした	

環境性能		評価点
(2)みどり・ヒートアイランド対策		3.0
みどり・ヒートアイランド対策に配慮した環境性能		概要記入欄
Q3 / 1 / /	生物環境の保全と創出	2.0
Q3 / 3 /3.2/	敷地内温熱環境の向上	3.0 植栽により敷地内温熱環境を緩和している
LR3/ 2 /2.2/	温熱環境悪化の改善	3.0
配慮事項	敷地の植栽に加え、建物壁面にも緑化を行い、温熱環境悪化の向上に努めた	

環境性能		評価点
(3)建物の断熱性		4.0
CO2削減に配慮した環境性能		概要記入欄
LR1/ 1 / /	建物の熱負荷抑制	3.7 品確法 5-1断熱等性能等級5
配慮事項	適切な断熱仕様とLow-Eガラスを含むペアガラスを採用し、断熱性能に配慮した	

環境性能		評価点
(4)エネルギー削減		5.0
CO2削減に配慮した環境性能		概要記入欄
LR1/ 3 / /	設備システムの高効率化	5.0 高効率の設備を採用
配慮事項	効率の良い設備機器や節湯器具を選定することにより一次エネルギー消費量を抑える配慮をした	

省エネルギー基準計算結果

基準適合状況	適合
--------	----

※ 外皮性能については、住宅部分が等級4(相当)以上、非住宅部分が1.0以下であること
※ 一次エネルギー消費量については、建物全体のBEI、BEImが1.0以下であること(新築時)
(基準適合義務がある部分については、その部分のBEI、BEImが1.0以下であること)

外皮性能	住宅部分(品確法等級)	非住宅部分[BPI][BPI _m]
	等級4を超える(相当)	0.97
一次エネルギー消費量	建物全体[BEI][BEI _m]	住宅部分[BEI]
	-	0.73
		非住宅部分[BEI][BEI _m]
		0.56